



▲チュウリップ祭りで行われた地井武男さんのトークショー

問 本市では俳優の地井武男さんに観光大使を務めていただいているが、その活動状況は、**答** 地井さんには、本市紹介のため、メディアへの出演に大変なる御尽力をいただいているところで、今年も祇園祭と合わせて、人

問 今、世界の食料情勢を見ると、食料自給が逼迫する中、国際市場での先物取引による価格変動が激しくなっており、また、国内の米の価格は先の見えない状況となっているところ。農産物の価格補償については、先に提出をされている農業委員会決議を参考にさせていただきながら、国・県、関係機関への要請を検討したいと思っております。**答** 香取市では、農機具の購入に三分の一を助成する制度を新たに作りましたが、農業の再建、再生のために本市でも制度化することを求めたい。

問 八日市場駅北側の日本たばこ産業（J.T）跡地について、民間への売却も含めて検討していくとのことだが、市有地の有効活用のため、市民に意見や提案を求めている。**答** J.T跡地の有効活用については、このたび商工会から、商工会が主体となった活用策を策定することは困難になった旨の回答が残念ながらなされました。地域のにぎわいの創出は、匠瑛市総合計画においても優先的に取り組むべき施策として位置づけをされていますので、今後ともどのようにJ.T跡地を活用すれば最も有効か、市が主体となった活用策や各方面から広く求める事業提案方式による売却なども含めて検討を進めたいと考えています。

問 防災行政無線は、屋外拡声子局三十局、戸別受信機一万三千台となる計画だが、野菜地域は平地が広がつており、戸別受信機より屋外拡声子局の方が適しているとの意見もある。この計画は、実態に合わせて検討した結果か。**答** 野菜地域は屋外拡声子局の方がよいとの意見があるとのことですが、全国の事例を見ても、防災行政無

線のよりよい設置形態は、各世帯に戸別受信機を配置し、それを補うべく屋外拡声子局を設置するシステムであると考えます。野菜地域の世帯数は約三千世帯ありますが、現在、戸別受信機は一千百三十八台しか設置されていません。このたびの防災行政無線整備事業は、全世帯へ設置する事業であり、行政サービスの向上につながるもの

と考えています。なお、戸別受信機の受信状況については、事前に試験を行っており、心配ありません。



▲全世帯へ設置される予定の戸別受信機

防災行政無線

産業振興

一般質問は、市長などに市政全般について疑問な点や方針等をたずねるものです。六月定例会では、六月十七日と十八日に一般質問が行われ、通告順に五名の議員が質問に立ちました。主な質問と答弁を要約し掲載しました。

川口	明和議員
田村	明美議員
荻谷	進一議員
武田	光由議員
大木傳	一郎議員

六月定例会 市政に関する 一般質問

気番組「ちい散歩」の収録が行われる予定と聞いています。また、市からの要望だけでなく地井さん本人からの御提案をいただき、よかつぱ祭りのオーケストラ企画等を行っております。また、チュウリップ祭りや講演会、トークショー等さまざまな行事にスケジュールを割いていただき、積極的にかかわっていただいています。



▲豊作が期待される稲作経営

問 米の生産原価について、農林水産省の試算では一俵一万七千円であるが、売値は一万二〜三千円である。米の価格補償を国に強く求めほしい。**答** 今、世界の食料情勢を見ると、食料自給が逼迫する中、国際市場での先物取引による価格変動が激しくなっており、また、国内の米の価格は先の見えない状況となっているところ。農産物の価格補償については、先に提出をされている農業委員会決議を参考にさせていただきながら、国・県、関係機関への要請を検討したいと思っております。

問 今後の東総地域医療連携の方向性として、東総地域の医療体制の確保や、公立病院の経営改善については、経営統合には時間を要することから、当面は医療連携の強化により対応することが確認されたところ。いずれにしても、市民病院においては、悠長に構えている余裕はありませんので、早急に庁内に医療スタッフを含めた組織を立ち上げ、旭中央病院との連携の

実施しており、今後も、利子補給を継続していきたいと思っております。また、農家の要望などを併せて、国・県の補助事業等を活用していただくとともに、新しい事業を展開していきたいと考えています。

問 市民病院の医師不足問題を解決するために考えられる東総地域医療連携の方向性は、また、いつ頃までに結論を出すべきか。**答** 今後の東総地域医療連携の方向性として、東総地域の医療体制の確保や、公立病院の経営改善については、経営統合には時間を要することから、当面は医療連携の強化により対応することが確認されたところ。いずれにしても、市民病院においては、悠長に構えている余裕はありませんので、早急に庁内に医療スタッフを含めた組織を立ち上げ、旭中央病院との連携の

強化や市民病院が独自にできる経営改善策を検討していきたいと考えています。**問** 地域の開業医の方々に協力依頼し、夜間の一次救急の外来診療体制を作ることを検討できないか。**答** 夜間における救急診療体制については、市内では市民病院と九十九里ホーム病院が救急告示病院として指定されています。しかし、近年の医師不足に加えて、医師の専門分野の関係から救急患者の十分な受け入れは困難な状況です。こうした現状を打開するため、東総地域の拠点病院である旭中央病院との機能分担を早急に協議し、救

急医療体制の再構築をしていく必要があると考えています。また、休日の一次救急医療は地元医師会に、さらに急な入院や手術などの二次救急医療は市民病院のほか九十九里ホーム病院と東陽病院とで輪番制により実施しているところです。なお、御質問の夜間一次救急で開業医の協力を得ることについては、以前に当院の院長と相談したこともありましたが、「開業医はそれぞれ自分のところの診療を行っており、夜間一次救急の協力をお願いすることは無理でないか」という院長の見解でした。

地域医療

いずれにしても、市民病院においては、悠長に構えている余裕はありませんので、早急に庁内に医療スタッフを含めた組織を立ち上げ、旭中央病院との連携の

強化や市民病院が独自にできる経営改善策を検討していきたいと考えています。

また、休日の一次救急医療は地元医師会に、さらに急な入院や手術などの二次救急医療は市民病院のほか九十九里ホーム病院と東陽病院とで輪番制により実施しているところです。